證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ請務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ擧ケサル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ法律上ノ理由ナキ異議若ク
ハ證書訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖モ此訴訟ニ於テハ其訴ヲ
許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十條　證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ
之ヲ擧ケサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十一條　主張シタル請求ヲ爭ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總ノ場合ニ於テ其權利
ノ行使ヲ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

第四百九十二條　主張シタル請求ヲ終局判決ト看做ス

留保ヲ掲クタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ於テハ之ヲ終局判決ト看做ス

第四百九十二條　被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟手續ニ於テ證據ス

此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ變棄
シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基
キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ

右手續ニ於テ原告若ク
ハ被告カ出頭セサルトキハ缺席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百九十三條　第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用ス

第四百九十四條　商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシ
ヲ以下二條ニ掲クル特別ノ規定ヲ適用ス

第四百九十五條　爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ普通裁判籍ヲ有スル地方ノ裁判所ニ之ヲ
起スコトヲ得

數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ普通裁判籍
ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

第四百九十六條　訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クルコトヲ要ス

訴ノ許ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第六編　强制執行

第一章　總則

第四百九十七條　强制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲
ス

第四百九十八條　判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前
ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若ク
ハ上訴ヲ其期間內ニ申立若ク
ハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ
第四百九十九條　原告若ク
ハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ付與ス

記錄ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ
付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

第五百條　原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメ强制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメスシテ爲ス强制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百一條　左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

第二　證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

第三　同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ關席判決

第四　假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

第五　養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三个月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキニ限ル

第五百二條　左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡、使用、占據若クハ修繕ニ關シ又ハ

貸借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃貸人ト貸借人トノ間ニ起リタル訴訟

第二　占有ノミニ係ル訴訟

第三　雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一个年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四　左ニ揭ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

イ　賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

ロ　旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物、金錢又ハ有價物

第五　此他財產權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セサル訴訟但其物ノ價額ニ付テハ第三乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

第五百三條　前二條ニ揭ケタル外左ノ場合ニ於テハ財產權上ノ請求ニ關スル判決ニ限リ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申出ツルトキ

第二　債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疏明スルトキ

第五百四條　債務者カ判決ノ確定ト爲ル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受ク可キコトヲ疏明シタルトキハ其申立ニ因リ左ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一　第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行ス可カラサルコト

第二　第五百二條及七第五百三條ノ場合ニ於テハ債權者ノ假執行ノ申立ヲ却下スルコト

第五百五條　總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者ヲシテ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得

債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立シルコトヲ申出テサルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可シ

第五百六條　假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

第五百七條　假執行ニ付テノ裁判ハ判決主文ニ之ヲ掲ク可シ

第五百八條　職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲ササルトキ又ハ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立ヲ看過シタルトキハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得

第五百九條　第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件附ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辯論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ附ス可シ

第五百十條　本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ効力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡ス可シ

第五百十一條　第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ

口頭辯論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第二審ニ於ケル假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百十二條　假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ適用ス

第五百十三條　本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其豐通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

第五百十四條　外國裁判所ノ判決ニ因レル强制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ豐通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又豐通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第五百十五條　執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一　外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二　本邦ノ法律ニ依リ强テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三　本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

第四　敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリシトキ但訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ送達セサリシトキニ限ル

第五　國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

第五百十六條　强制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

第五百十七條　執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ付記ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十八條　執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ付記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ强制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十九條　執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限リ之ヲ付與ス

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限リ執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百二十條　執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十一條　第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令ナルトキニ限リ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審問スルコトヲ得

第五百二十二條　第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

第五百二十三條　執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時ニ停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ繼行ス可キヲ命スルコトヲ得

第五百二十四條　債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一裁判ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルニ非サレハ之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條　執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與ス

ル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載スル可シ

第五百二十五條　執行力アル正本ノ効力又ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

第五百二十六條　債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサル虞キハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

第五百二十七條　債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第五百二十八條　强制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

第五百二十九條　强制執行ハ其事實ノ到來ニ繫ルヰ又ハ判決ノ執行カ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行文ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百三十條　强制執行ハ其日時ノ滿了後ニ限リ强制執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十一條　强制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限リ執達吏之ヲ實施ス

若シ執行力債權者カ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ其執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十二條　執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

第五百三十三條　債權者執行力アル正本ヲ交付シテ强制執行ヲ委任シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ辨濟シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スル旨ヲ記載スル可シ

第五百三十四條　執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スル前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條　執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ辨シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ

之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ證シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付スヘシ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

第五百三十六條　執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居倉庫及ヒ筐匣ヲ捜索シ又ハ開鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用ヰ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツヘシ

第五百三十七條　執達吏ハ執行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシムルヘシ

第五百三十八條　強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記錄ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記錄中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百三十九條　夜間及ヒ日曜日竝ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限リ執行行爲ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示スヘシ

第五百四十條　執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ルヘシ

此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　調書ヲ作リタル場所、年月日

第二　執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記

第三　執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四　右各人ノ署名捺印

第五　調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閲覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ明示

第六　執達吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載スヘシ

第五百四十一條　執行行爲ニ關スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載スヘシ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第百三十九條、第百四十條及ヒ第百四十五條乃至第百四十九條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載スヘシ

若シ强制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載スヘシ

第五百四十二條　執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條　此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタ

ル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條　强制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執遂吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命令ヲ發スル權ヲ有ス

執遂吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執遂吏ノ計算セシ手數料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

第五百四十五條　判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限リ之ヲ許ス

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

第五百四十六條　前條ノ規定ハ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文ノ付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

第五百四十七條　强制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ强制執行ヲ繼行ス

第五百四十八條　受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ揭ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

判決中前項ニ揭クル事項ニ限リ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス

第五百四十九條　第三者カ强制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其强制執行ニ對スル異議ヲ主張又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起スヘキ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起スヘキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

第五編　民事訴訟法

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百五十條　強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一　執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サスシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第二　執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

第三　執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書

第四　執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

第五百五十一條　前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限リ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

第五百五十二條　強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ續行ス可シ債務者ノ知ルコヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

第五百五十三條　強制執行ノ開始後ニ戸主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財產ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十四條　強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ變更若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

第五百五十五條　執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條　豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舍又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ嘱託シテ之ヲ爲ス

嘱託ニ因リ差押ヘタル物ハ債務者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

第五百五十七條　外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ嘱託ス可シ

外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ嘱託ス可シ

第五百五十八條　強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十九條　強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一　抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二　執行命令

第三　訟ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解

第四　第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五　公證人カ其權限內ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

第五百六十條　前條ニ揭ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百六十條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ因リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十一條　執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ之ヲ許ス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

第五百六十二條　公證人ノ作リタル執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

第五百六十三條　本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

第二章　金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節　動產ニ對スル強制執行

第一款　通則

第五百六十四條　動產ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ揭ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十五條　第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疎明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款　有體動產ニ對スル強制執行

第五編　民事訴訟法

第五百六十六條　債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債務者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其効力ヲ生ス

第五百六十七條　前條ノ規定ハ債務者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條　果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然トモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

蠶ハ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ掃リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五百六十九條　差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ産出物ニモ當然及フモノトス

第五百七十條　左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　衣服、臥具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル

第二　債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及ヒ薪炭

第三　技術者、職工、勞役者及ヒ穉蚕ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物

第四　農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル器具及ヒ種子

第五　文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第六　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ爲メ公ニセサル著述ノ稿本

第七　藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八　勳章及ヒ名譽ノ證標

第九　實印其他職業ニ必要ナル印

第十　神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一　系譜

第十二　債務者又ハ其家族ノ爲メ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ爲メ公ニセサル著述ノ稿本

第十三　債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

第五百七十一條　差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ナシテ之ヲ豫納セシメ又債權者效名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條　執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百七十三條　競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價

ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條　差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ差押ヲ免ルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十五條　差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條　競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

第五百七十七條　最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ餘剩ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條　競賣ハ競得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條　執達吏競得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條　金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競賣ヲ爲ス

債務者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ適スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百八十一條　執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

第五百八十二條　有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十三條　無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條　土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ

差押ヘタル證ノ競賣ハ全ク瞞ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百八十五條　差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

第五百八十六條　執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作リ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債務者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條　前條ニ揭ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ効力ヲ生ス

第五百八十八條　適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條　民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條　前條ノ配當要求ハ其原因ヲ明示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條　第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知スヘシ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾ス可ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條　配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコト得ス

第五百九十三條　賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可ク其屆書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル強制執行

第五百九十四條　第三者（第三債務者）ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若ク

ハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ强制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條　執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

第五百九十六條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條　差押命令ハ職メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百九十八條　金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

第五百九十九條　抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得

裁判所ハ義務ヲ負フタル不動產ノ所有者（第三債務者）ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

第六百條　差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アランコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條　支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第六百二條　取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債務者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

第六百三條　手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第六百四條　俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシテ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

第六百五條　職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官轉任又ハ增俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス

第六百六條　債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

第六百七條　第五百五條第二項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル効力ノミヲ有ス

第六百八條　債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ

第六百九條　差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第一　債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度竝ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二　債權ニ付キ他ノ者ヨリ請求ノ有無及ヒ其限度

第三　債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ第三債務者陳述ヲ爲シ第三債務者陳述ヲ爲シタルトキハ此ニ因リテ右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者ニ生シタル損害ノ賣ニ任ス

第六百十條　債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ爲シ且債務者內國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條　債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ賣ニ任ス

第六百十二條　債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ屆書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條　差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ他ノ理由ノ爲リテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

債務者內國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ掛酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十五條　有體動產ノ請求ノ差押ニ付テハ其動產ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動產ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第六百十六條　不動產ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動產ヲ不動產所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動產ニ付テノ強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十八條　左ニ揭ク債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　法律上ノ養料

第二　債務者カ疑捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受ク可キ繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三　下士、兵卒ノ給料竝ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第四　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入

第五　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育學校教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六　職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受ク可キ報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一个年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ爲押フルコトヲ得

第六百十九條　數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條　執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執遂更カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用スシテ配當ヲ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

第六百二十一條　金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第六百二十二條　請求カ不動產ニ關スルトキハ第三債務者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動產ヲ引渡ス權利ヲ有ス又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條　第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス效力アリ

第六百二十四條　差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條　不動產ヲ目的トセス又前數條ニ揭ケタル以外ノ財產權ニ對スル强制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

第四款　配當手續

第六百二十六條　配當手續ハ動產ニ對スル强制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

第六百二十七條　裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

第六百二十八條　前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條　期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラス配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條　異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ意リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受クタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルルコト無シ

第六百三十五條　異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數個ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所ノ所在地ヲ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條　異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係爭部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ムル可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條　異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百三十八條　前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求竝ニ届書ノ旨趣及ヒ其證據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條　裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要ス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閲覽セシムル爲メ遲クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條　期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權者其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條　異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條　期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

第六百三十九條　裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ證記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ乃チ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

第二節　不動產ニ關スル強制執行

第一款　通則

第六百四十條　不動產ニ關スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一　強制競賣

第二　強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條　不動產ニ對タスル強制執行ニ付テハ其不動產所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動產數箇ノ區裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

第二款　強制競賣

第六百四十二條　強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二　不動產ノ表示

第三　競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第六百四十三條　申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一　登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動產ニ付テハ登記判事ノ認證書

第二　登記簿ニ登記アラサル不動產ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書

第三　地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一个年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

第四　建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一个年ノ公果ヲ證ス可キ證書

第五　地所建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限竝ニ其借賃ヲ證ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公源ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記錄ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條　競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動產ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動產ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其効力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動產ニ付キ强制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ因リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル効力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動產ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條　配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求ススル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條　左ニ揭クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一　差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二　債務者

第三　登記簿ニ記入アル不動產上權利者

第四　不動產上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記錄ニ備フ可キ屆出ヲ爲シタル者

第六百四十九條　差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動產ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動產ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及抵當權ハ賣却ニ依リテ消滅ス

留置權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

質權カ不動產ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス（民法施行法第五十一條ヲ以テ改正）

第六百五十條　權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動產カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルヿヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

第六百五十二條　登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條　豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消スヘシ

第六百五十四條　裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告スヘシ

第六百五十五條　裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條　裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條　競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　不動産ノ表示

第二　租稅其他ノ公課

第三　賃貸借アル場合ニ於テハ其期限竝ニ借賃

第四　強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨

第五　競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名竝ニ住所

第六　最低競賣價額

第七　競落期日ノ場所及ヒ日時

第八　執行記錄ヲ閲覽シ得ヘキ場所

第九　登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十　利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

第六百五十九條　競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條　競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條　競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ掲示シテ之ヲ爲ス

第一　裁判所ノ掲示板

第二　不動産所在地ノ市町村ノ掲示板

第五編　民事訴訟法

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

第六百六十二條　最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アリタルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告スル可シ

第六百六十三條　競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告スル可シ

第六百六十四條　利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメンコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦效力アリ

第六百六十五條　競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

競賣ハ競買價額ヲ申出ツル可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ終局スルコトヲ得ス

第六百六十六條　執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ請求スルノ權利アリ

第六百六十七條　競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　不動產ノ表示

第二　差押債權者ノ表示

第三　執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

第四　競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五　總テノ競買價額竝ニ其申出人ノ氏名住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六　競買終局ヲ告知シタル日時

第七　申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八　最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上タル最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ記附ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取リ之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條　執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日內ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條　最高競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條　競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競賣價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

第六百七十一條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシムル可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條　競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一　强制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二　最高價競買人競買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動產ヲ取得スル能力ナキコト

第三　法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競賣ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四　競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ揭ケタル要件ノ記載ナキコト

第五　競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リ之ヲ爲ササルコト

第六　第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七　第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八　第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條　異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ揭ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動產カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條　數個ノ不動產ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動產ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ルヘキトキハ他ノ不動產ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動產中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

第六百七十六條　第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ定規ニ從ヒテ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條　前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第百二十九條乃至第百三十二條及ヒ第百三十四條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十八條　競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動產カ著シク毀損シタルトキハ最高價競賣人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其許可ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條　競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動產、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ揭ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ揭ク可シ

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十條　利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ塲合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ揭ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

第二項ノ塲合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

第六百八十一條　競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ揭クル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ揭クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコト得

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラルルコト無シ

第六百八十二條　抗告裁判所ハ必要ナル塲合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條　執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十四條　競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

第六百八十五條　第六百七十八條ノ塲合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條　競落人ハ競落ヲ許ス規定ニ因リテ不動產ノ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條　競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動產ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動產ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動產ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條　競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動產ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテ買人代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消

ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競賣ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百八十九條　共有物持分ノ强制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ强制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其强制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條　競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル競押記入ノ抹消ヲ登記例郎ニ囑託ス可シ

第六百九十一條　競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條　各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條　代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條　期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動產ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

第一　代金

第二　不動產カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金ノ支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競賣價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條　裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條　配當表ニハ賣却代金各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位幷ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條　配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條　期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十

第五編　民事訴訟法

八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條　競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條　配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一　競落人ノ所有權ノ登記

第二　競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

第三　第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

第七百一條　數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條　裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條　入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニテ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　入札人ノ氏名及ヒ住所

第二　不動産ノ表示

第三　入札價額

第七百四條　執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條　最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款　強制管理

第七百六條　強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疎明スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條　裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ

其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ

既ニ収穫シ若クハ収穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條　裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百九條　配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者債務者、及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條　管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理ハ管理及ヒ収益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ収益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條　裁判所ノ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ

業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條　第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

債七百十四條　管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル収益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

債七百十五條　管理人ハ每年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キテ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

第七百十六條　強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動產ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理繼行ノ爲メ特別ノ設用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ執行管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第三節　船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條　商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動產ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條　船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條　船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條　強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一　債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二　船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有効ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條　裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ繼行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條　船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ効力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者カ船長ノ變更アルモ手續ノ繼行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條　船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄內ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條　競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ揭ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ揭ク可シ

第七百二十五條　定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

第七百二十六條　船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添附ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ對スル強制執行ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條　船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條　外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登錄記ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十條　債務者カ特定ノ動產又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條　債務者カ不動產又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動產ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ揭ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動產ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動產ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

第七百三十二條　引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條　民法第四百十四條第二項及第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ依リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス（民法施行法第五十四條ヲ以テ改正）

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アランコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

第七百三十四條　債務ノ性質カ强制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間內ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直ニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス（同上）

第七百三十五條　前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百三十六條　債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規

定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其効力ヲ生ス

第四章　假差押及ヒ假處分

第七百三十七條　假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル强制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條　假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條　假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條　假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二　假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由之ヲ疏明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七百四十一條　假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

第七百四十二條　假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條　假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲ニ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條　債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條　異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シヲ之ヲ言渡スコトヲ得

第七百四十六條　本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條　債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第七百四十八條　假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條　假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十條　動產ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託スル可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス

然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生スル可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ競賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條　不動產ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因テ之ヲ爲ス

第七百五十二條　假差押執行ノ爲メ强制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條　船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條　假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ繼行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條　係爭物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條　假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條　假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條　裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム
假處分ハ保管人ヲ設ケ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第七百五十九條　特別ノ事情アルトキニ限リ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條　假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル强暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條　急迫ナル場合ニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ爲スルコトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條　本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限リ控訴裁判所トス

第七百六十三條　急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

第七百六十四條　請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル効力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條　公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　申立人ノ表示

第二　請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三　届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四　公示催告期日ノ指定

第七百六十六條　公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ揭載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ揭載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條　公告催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條　除權判決ハ申立ニ因リ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタルコトヲ得

第七百七十條　申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條　申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六个月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條　公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條　裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條　除權判決ニ對シテハ上訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一　法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス塲合ニ非サルトキ

第二　公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三　公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四　判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五　請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラス判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

第六　第四百六十九條第一號乃至第五號ノ塲合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條　不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ塲合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五个年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條　裁判所ハ第百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條　盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

第七百七十八條　無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條　公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄ス

入カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條　申立人ハ申立ノ濫據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一　證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二　證書ノ盜難紛失滅失及公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ疏明スルコト

第七百八十一條　公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ屆出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可シ又失權トシテ證書ノ無效宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條　公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ揭載シ及ヒ新聞紙ニ三回揭載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ揭示ス可シ

第七百八十三條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ揭載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條　除權判決ニ於テハ證書ヲ無效ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無效宣言ヲ取消シタルトキハ其申立ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條　除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八編　仲裁手續

第七百八十六條　一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係爭物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其効力ヲ有ス

第七百八十七條　將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係人及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關セサルトキハ其効力ヲ有セス

第七百八十八條　仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條　當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間內ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條　當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ撤回ヲ爲スコトヲ得ス

第七百九十一條　仲裁契約ヲ以テ選定シタル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間內ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條　當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、聾者、唖者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條　仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

第一　契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

第二　仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條　仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條　仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

第七百九十六條　仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ逃フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

第七百九十七條　仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ス可キ爭ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキ雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條　數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス可キトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲ス可シ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條　仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條　仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ効力ヲ有ス

第八百一條　仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一　仲裁手續ヲ許ス可カラサリシトキ

第二　仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三　當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第四　仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ

第五　仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六　第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第五編　民事訴訟法

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ揭ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條　仲裁判斷ニ依リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ヲ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條　執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ揭ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

第八百四條　仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間內ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五ケ年ノ滿了後ハ此訴ヲ爲スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

第八百五條　仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

● 民事訴訟法施行條例（二十三年法律第五十號）

第一條　民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

第二條　民事訴訟法實施前ニ瞬席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第三條　民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第四條　民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條　民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ强制執行ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シタル事件ハ其手續ノ終了マテハ舊法ニ從フ

第六條　民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得サル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記錄ノ存在スル裁判所ニ之ヲ求ムルコトヲ得

第七條　民事訴訟法實施前既ニ勘解ヲ出願シ來タル完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條之ヲ管轄ス

ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條　民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ關ス

第九條　民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ內刑法ノ親屬例ニ依ル

第十條　婚姻離婚及養子ノ縁組離縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ內其慣例ニ從フ

第十一條　明治八年第六號布告ハ當分ノ內其効力ヲ有スルモノトス

第十二條　明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トアルヲ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ內其効力ヲ有スルモノトス

●訴訟書類郵便送達手數料（二十四年勅令第五十四號）

民事訴訟法第百三十六條ニ依リ郵便ヲ以テ訴訟書類ノ送達ヲ爲ストキハ郵便稅書留手數料ノ外送達手數料トシテ一通ニ付五錢ヲ納ムヘシ但其手數料ハ郵便切手ヲ以テ前納スルモノトス

●民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルノ規定（二十四年勅令第三號）

第一條　各省北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得（二十五年勅令第六號ヲ以テ改正）

第二條　各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得（二十五年勅令第六號ヲ以テ改正）

第三條　前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス（二十四年勅令第五十四號）

第四條　官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルトキハ本令ニ依ルノ限ニ在ラス

●政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合ニ於ケル會計上ノ規定（二十六年勅令第二百六十一號）

第一條　政府ヲ第三債務者トシテ發スル差押命令ハ左ノ二項ニ掲クルモノヽ外仕拂命令官ニ宛之ヲ發スルモノトス

仕拂命令官既ニ現金前渡ノ仕拂命令又ハ仕拂請求書ヲ發シタル場合ニ於テハ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ向テ差押命令ヲ發スルモノトス但記名公債元利ニ對スル差押命令ハ公債元利ノ仕拂ヲ取扱フ銀行ニ向テ發スルモノトス

預金、保管金、供託金ニ對スル差押命令ハ中央金庫ニ係ルモノヲ除ク外關係ノ金庫出納役代理人ニ向テ發スルモノトス

第二條　繼續收入ノ債權差押ノ命令ニ於テ關係官廳又ハ金庫ニ變更アルトキハ甲官吏又ハ甲金庫ノ受ケタル差押命令ハ乙官吏又ハ乙金庫ニ於テ之ヲ承繼スルモノトス

第三條　差押債權者差押命令送達ノ通知ヲ受ケタルトキ緊急ノ場合ニ於テハ仕拂ヲ執行スヘキ金庫ニ向ヒ假リニ仕拂ノ停止ヲ求ムルコトヲ得

第四條　仕拂命令、仕拂請求書、集合仕拂命令、集合仕拂請求書及現金引出切符ヲ政府ノ債權者ニ交付シタル後差押命令ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令官又ハ現金前渡ヲ受ケタル當該官吏ハ速ニ政府ノ債務ニ對シ差押命令ヲ受クル場合ニ於ケル會計上ノ規定

金庫ニ向テ差押命額ノ仕拂ヲ停止スヘシ

第五條　差押ヘラレタル金額ヲ裁判所ノ命令ニ依リ差押債權者ニ仕拂フヲ要スルトキハ當該仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル當該官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　配當金要求ノ送達又ハ民事訴訟法第六百七條ノ命令ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該仕拂命令官、現金前渡ヲ受ケタル當該官吏、銀行又ハ金庫ニ於テ供託ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　差押金額ノ仕拂停止、差押命令又ハ供託ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第八條　假差押命令ノ場合ニ於テハ本令ヲ準用ス

附　則

第九條　本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

●民事上告豫納金手續（十年第十九號布告）

（別册ノ内）

第十六條　上告者ハ其上告狀ニ添テ金拾圓ヲ上告裁判所ニ預クヘシ若シ其金高ヲ預ケサルトキハ上告ヲナスコヲ得ス（二十三年法律第五十號第十二條ヲ以テ大審院トアルヲ上告裁判所ト改ム）

第一　若シ上告ヲ取上ケサルトキハ其預リ金ヲ還付ス

第二　若シ上告ヲ取上ケ原裁判ヲ破毀シタル時ハ預リ金ヲ還付ス

第三　若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサル時ハ預リ金ヲ沒入シ又訴訟入費規則ニ服シテ被告人ノ費用ヲ償ハシム（被告人トハ上告者ノ相手方ヲ云）

●民事訴訟費用法（二十三年法律第六十四號）

第一條　民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條　訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ滿タサル モノモ亦同シ

圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第三條　翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第四條　民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代償ニ依ル

第五條　執達吏ノ手數料及ヒ立替金ハ執達吏手數料規則ノ規定ニ從フ

第六條　郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條　官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條　民事訴訟法第百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條　當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滯在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

第十條　證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ五十錢トス但滯在費ヲ給ス場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

第十一條　鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付キ別ニ支出シタル費用ハ其實費ニ依ル

第五編　民事訴訟費用法

第十二條　當事者ノ滯在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滯在スルトキハ一日金二十五錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ滯在費ハ一日金五十錢トス

第十三條　當事者、證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢トス

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十四條　判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ滯在費ハ證人ニ準ス

第十五條　本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條　強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏手數料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

●民事訴訟用印紙法（二十三年法律第六十五號）

第一條　民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條　財產權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マヲ	二十錢
同十圓マテ	三十錢
同二十圓マテ	六十錢
同五十圓マテ	一圓五十錢
同七十五圓マテ	二圓二十錢
同百圓マテ	三圓
同二百五十圓マテ	六圓五十錢
同五百圓マテ	十圓
同七百五十圓マテ	十三圓
同千圓マテ	十五圓
同二千五百圓マテ	二十圓
同五千圓マテ	二十五圓

同五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條　財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財產權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條　本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條　控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條　左ニ揭クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一　抗告
第二　故障
第三　證據調ノ申立
第四　假差押及ヒ假處分ノ申請
第五　判決ノ送達アランコトヲ求ムル申立
第六　執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ
第七條　和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ
第八條　再審ヲ求ムルノ訴訟ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
第九條　原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ
第十條　答辯書其他前數條ニ揭ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
第十一條　民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其効ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有効ナラシムルヲ得
第十二條　印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル
第十三條　印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サス
第十四條　官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス
第十五條　前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス
第十六條　第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

●家資分散法（二十三年法律第六十九號）

朕家資分散法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

家資分散法

第一條　民事訴訟法ノ强制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スヘシ
右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得
此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第二條　前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
第三條　第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ
第四條　家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選擧權及被選擧權ヲ失フ
家資分散者ノ復權ニ付テハ商法第千五十五條以下ヲ準用ス
第五條　商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ効力ヲ有ス

●外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件(三十二年法律第五十號)

第一條　法律ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル
捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

第二條　民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ求ムル外國人ハ日本ニ住所、居所ヲ有セサルトキハ其ノ住所又ハ居所ア外國ノ管轄官廳ノ證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ證明書ニハ日本ニ駐在スル其ノ外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所地又ハ居所地ノ市町村長ノ證明書ヲ以テ前項ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ證明カ不十分ナルトキハ裁判所ハ日本ニ駐在スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

附則

第三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●人事訴訟手續法(三十一年法律第十三號)

第一章　婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第一條　婚姻ノ無效者クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提出スル離婚ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナリトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ司法省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所地トス

第二條　夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無效又ハ取消ノ訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス

第三者カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ夫婦ヲ以テ相手方トス

前二項ノ規定ニ依リテ相手方トスヘキ者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス

檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ本案ノ訴訟手續受繼ノ爲メ裁判所ハ辯護士ヲ事務管理人トシテ選定スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之レヲ定ムヘシ

第三條　無能力者カ婚姻ノ無效者クハ取消、離婚又ハ同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

無能力者カ前項ノ訴訟行爲ヲ爲サントスルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得

代理人ニ選任スルコトヲ要ス

無能力者カ前項ノ申立ヲ爲ササルトキ雖モ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキ旨ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得

前條第五項ノ規定ハ受訴裁判所ノ裁判長カ辯護士訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　夫婦ノ一方カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコト

ヲ得

禁治産者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五條　婚姻事件ニ付テハ檢事ハ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要ス

檢事ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第六條　檢事ハ當事者ト爲ヲサルトキ雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第七條　婚姻ノ無効ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得

他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得ス但扶養ノ請求、訴ノ原因タル事實ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リ婚姻事件ニ附帶シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ハ此限ニ在ラス

第八條　婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於テ辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條　婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ裏却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第十條　民事訴訟法第百十一條第二項、第三項及ヒ第三百三十五條乃至第三百四十一條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用ス同法第二百二十九條中請求ノ認諾ニ關スル規定亦同シ

裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

民事訴訟法第二百十條ノ規定ハ婚姻事件ノ控訴審ニ之ヲ適用セス

第十一條　婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ヲ除ク外被告カ期日ニ出頭セサルトキ雖モ辯論ヲ命シ且判決ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民事訴訟法第二百四十八條及ヒ第四百二十九條ノ規定ヲ適用ス

前二項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス

第十二條　裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得

當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十三條　和諧ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限リ一年ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條　裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌

第五編　人事訴訟手續法

スルコトヲ得但其事實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第十五條　婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第十六條　扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條　檢事カ此訴訟ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス

第十八條　婚姻ノ無效若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

民法第七百六十六條ノ規定ニ違反シタルコトヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ請求シタル場合ニ於テ其訴ヲ認容シタルトキハ當事者ノ前配偶者ニ對シテハ其者カ訴訟ニ參加シタルトキニ限リ其效力ヲ有ス

第十九條　檢事カ提起スルコトヲ得ル婚姻事件ノ訴ニ限リ第四條ノ規定ヲ適用ス

第二十條　檢事カ訴ヲ提起スルトキハ夫婦ヲ以テ相手方トス

第二十一條　訴ノ變更又ハ併合ノ檢事カ提起スルコトヲ得ル訴ナキトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

訴ノ事由ノ變更又ハ併合ノ檢事カ提出スルコトヲ得ル事由ナルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但夫婦ノ一方カ死亡シタル後ハ此限ニ在ラス

第二十二條　檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ當事者ノ全員ヲ以テ相手方トス

第二十三條　檢事カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事ヲ以テ相手方トス

第二十四條　養子緣組ノ無效若クハ取消又ハ離緣ノ訴ハ養親カ尊通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻事件ニ附帶シテ緣組ノ取消又ハ離緣ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

第二十五條　養親カ禁治產者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス

養子カ禁治產者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戶主ハ離緣ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條　第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子緣組事件ニ之ヲ準用ス

第二章　親子關係事件、相續人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續

第二十七條　子ノ否認、認知、其認知ノ無效若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十八條　夫カ禁治產者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ以テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條　夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セスシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相續權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限リ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第一項ニ揭ケタル者ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クコト

ヲ得

第三十條　父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ互ニ其相手方トス

子又ハ母カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トス

亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十一條　親權者タル父又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條　失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ親權者ノ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス

第三十三條　推定家督相續人若クハ推定遺產相續人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十四條　廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條　隱居ノ無効又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條　隱居者カ提起スル隱居ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相續人ヲ以テ相手方トス

家督相續人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者ヲ以テ相手方トス

隱居者及ヒ家督相續人ニ非サル者カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相續人ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十七條　檢事ハ本章ニ揭ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條　本章ニ揭ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三十九條　第一條第三項、第三條、第五條、第七條　第二項、第十條乃至第十二條及ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ揭ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第七條第一項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第三十一條、第三十三條及ヒ第三十五條ニ揭ケタル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財產管理者ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隱居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章　禁治產及ヒ準禁治產ニ關スル手續

第四十條　禁治產ノ申立ハ禁治產ノ宣告ヲ受クヘキ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第五編　人事訴訟手續法

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ之ヲ準用ス

第四十一條　妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第四十二條　申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示スヘシ

第四十三條　裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第四十四條　禁治産ノ手續ハ之ヲ公ニセス

第四十五條　檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ追行シ且期日ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第四十六條　裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

民事訴訟法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第四十七條　裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ但其訊問ヲ爲シ難キトキ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條　禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條　禁治産ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第五十條　裁判所ハ禁治産ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クヘキ者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治産ノ宣告ヲリタル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

第五十一條　禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送達スヘシ

禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第五十二條　禁治産ヲ宣告シタル決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受ケタル日ヨリ効力ヲ生ス

法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ効力ヲ生ス

第五十三條　裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ

第五十四條　申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用ス

第五十五條　民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シ一个月內ニ訴ヲ

第五編　人事訴訟手續法

以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ知リタル日ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定カ效力ヲ生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第五十六條　前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ專屬ス

第五十七條　第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス

禁治産ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治産者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス

第五十八條　第五十五條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條　第二條第四項、第五項、第三條、第五條、第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十條　裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス

取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第六十一條　禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人カ爲シタル行爲ハ其效力ヲ變セス

禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治産者カ爲シタル行爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得ス

第六十二條　禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第六十三條　禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治産者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條　前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第六十五條　消禁産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

消禁産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢事及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

檢事ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十六條　禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十七條　準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第四十三條、第四十七條、及ヒ第四十八條ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セス

第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セス

第六十八條　準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十九條　本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

第四章　失踪ニ關スル手續

第七十條　失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條　失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條　公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト

二　不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲ササルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト

公示催告期間ハ六个月以上ナルコトヲ要ス

第七十三條　不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公示ノ日ヨリ二个月以上ナルヲ以テ足ル

第七十四條　檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且調問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第四十二條第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七十五條　各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第七十六條　不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第七十七條　失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第七十八條　失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十九條　數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第五十條ノ規定ヲ適用ス

第八十條　民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百七十五條ノ規定ヲ適用セス

附　則

第八十一條　本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十二條　明治二十三年法律第百四號其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモ

第五編　人事訴訟手續法

ノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第八十三條　本法施行前ニ提起シタル訴ニシテ其判決確定セサルモノニハ本法ノ規定ヲ適用ス

●非訟事件手續法（三十一年法律第十四號ヲ以テ制定シ三十二年法律第五十一號ヲ以テ改正ス）

第一編　總則

第一條　裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス

第二條　裁判所ノ土地ノ管轄カ住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ所轄裁判所トス

最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財産ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所カ管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ

第三條　數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス

第四條　管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ揭ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキハ之ヲ爲ス

民事訴訟法第二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第六條　事件ノ關係人ハ訴訟能力者ナシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ退序ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第七條　民事訴訟法第六十四條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第八條　申立及ヒ陳述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第百三十五條ノ規定ハ口頭ノ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス

第九條　申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　申立人ノ氏名、住所

二　代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所

三　申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實

四　年月日

五　裁判所ノ表示

證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添附スヘシ

第十條　期日、期間、疏明ノ方法、大證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條　裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第十二條　事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ進行ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第五編　非訟事件手續法

第十三條　審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聽ヲ許スコトヲ得

第十四條　證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限リ之ヲ作ラシムヘシ

第十五條　檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘシ

第十六條　裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合ヵ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條　裁判ハ決定ヲ以ス之ヲ爲ス

裁判ノ原本ニハ裁判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

第十八條　裁判ハ之ヲ受ケル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス

裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス

告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第十九條　裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ス

第二十條　裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

申立ニ因リテノミ裁判ヲナスヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス

第二十二條　即時抗告ノ期間ハ裁判ノ告知ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民事訴訟法第百七十四條乃至第百七十六條ノ規定ハ即時抗告ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二十四條　抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第四百三十五條、第四百三十六條及ヒ第四百五十三條規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第二十五條　抗告ニハ前五條ニ立メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條　裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條　裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係

人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條　民事訴訟法第八十條第一項ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得

民事訴訟法第八十二條第一項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三十一條　費用ノ債權者費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十三條　本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二編　民事非訟事件

第一章　法人ニ關スル事件

第三十四條　民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ假立者カ日本ニ住所ヲ有セサリシトキ又ハ其住所カ知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十五條　假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十六條　裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　第百三十六條乃至第百三十八條及ヒ第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

第二章　財產ノ管理ニ關スル事件

第三十八條　不在者ノ財產ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十九條　裁判所ノ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第四十條　裁判所ハ何時ニテモ其選任シタル法理人ヲ改任スルコトヲ得此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ屆出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ

第四十一條　裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財產ノ狀況ヲ報告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五編　非訟事件手續法

第四十二條　利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閲覧ヲ申請シ又ハ手數料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ前項ノ書類ヲ閲覧スルコトヲ得

第四十三條　民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人ニ之ヲ準用ス

第四十四條　裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其增減、變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得

第四十五條　裁判所ハ管理人ノ不動產又ハ船舶ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四十六條　裁判所カ財產ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄區裁判所之ヲ爲ス

第四十八條　封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ

民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十七條　左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス

一　日用品

二　封印ヲ爲スニ適セサル物

三　第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス

第四十八條　封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ

民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十九條　裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財產ノ保管者ヲ選任スヘシ

第四十條、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ之ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス

第五十條　封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直ヲニ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名捺印スヘシ

一　封印ヲ爲シタル裁判ノ表示

二　封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由

三　中立人ノ氏名、住所

四　封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫

五　封印ヲ爲ササリシ物件ノ概略及ヒ其事由

調書ハ二通ヲ作リ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置ヘシ

第五十一條　裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得

第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス

保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得

第五十二條　裁判所ハ豫メ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管理人及ヒ檢事ニ之ヲ告知スヘシ

利害關係人、管理人及ヒ檢事ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス

異議ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條　異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス

封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條　封印ノ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一　封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示

二　封印ノ除去ヲ爲シタル場所年月日及ヒ其事由

三　申立人ノ氏名、住所

四　異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト

五　財産ノ目錄ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメサリシコト

六　封印ノ狀況及ヒ異狀アルトキハ其事由

調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ

第五十五條　管理人カ調製スヘキ財産ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理人及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一　調製ノ場所、年月日及ヒ其事由

二　申立人ノ氏名、住所

三　不動産ノ表示

四　動産ノ種類及ヒ數量

五　債權及ヒ債務ノ表示

六　帳簿、證書其他ノ書類

財産ノ目錄ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人之ヲ保管シ其一通ハ裁判所ニ提出スヘシ

第四十六條第二項ノ規定ハ財産ノ目錄ノ調製ニ之ヲ準用ス

第五十六條　民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ、證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理人ニ命スルコトヲ得管理人カ調製シタル目錄ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目錄ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條　利害關係人ハ財産ノ目錄ノ閱覽ヲ申請シ又ハ手數料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

檢事ハ財産ノ目錄ヲ閱覽スルコトヲ得

第五十八條　裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却

スヘキコトヲ命スヘシ

第五十九條　本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消スヘシ

第六十條　利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得管理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十一條　裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス裁判所ノ爲シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ

第六十二條　裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十三條　民法第八百九十二條第二項乃至第四項ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三者カ數人ノ子ニ財産ヲ與ヘタル場合ニ於テ其住所カ異ナルトキハ年少ノ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十四條　第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十五條　民法第千二十一條第二項、第三項及ヒ第千五十二條ノ相續財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十六條　民法第九百七十八條ノ遺産ノ管理ニ關スル事件ハ相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十七條　民法第千四十三條ノ相續財産ノ管理ニ關スル事件ハ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十八條　第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ第五條ニ揭ケタル事件ニ之ヲ準用ス

第六十九條　民法第千五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　管理人ノ氏名、住所

二　被相續人ノ氏名、身分職業及ヒ最後ノ住所

三　相續人ノ出生及ヒ死亡ノ場所竝ニ其年月日

四　管理人ノ氏名、住所

第七十條　民法第千五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　前條第一號乃至第三號ニ揭ケタル事項

二　相續人ハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ノ催告

第七十一條　民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル公告ノ方法ハ前二條ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三章　裁判上ノ代位ニ關スル事件

第五編　非訟事件手續法

第七十二條　債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保存スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコトヲ得

第七十三條　裁判上ノ代位ハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十四條　代位ノ申請ニハ第九條ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　債務者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所

二　申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示

第七十五條　裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシテ之ヲ許可スルコトヲ得

第七十六條　申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ

前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條　申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者ヲ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十八條　抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第七十二條第一項ノ規定ニ從ヒテ其負擔ヲ定ム

第七十九條　第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四章　保存、假託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十條　民法第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ハ共有物ノ分割アリタル地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス

第八十一條　民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務履行ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ辨濟者ヲ訊問スヘシ

裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス

第八十二條　第四十條、民法第六百五十八條第一項、第六百六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十條ノ通知ハ辨濟者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條　第八十一條ノ規定ハ民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス

第八十三條ノ二　第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス

第八十四條　民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ノ費用ハ債務者ノ負擔トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ

第五編　非訟事件手續法

第八十五條　民法第千三十二條第二項、第千三十四條及ヒ第千百三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第八十六條　民法第千四十七條及ヒ第千五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ第六十七條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第八十七條　民法第千三十二條第二項、第千三十四條、第千四十七條及ヒ第千五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス

第八十八條　第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニハ之ヲ適用セス

第八十九條　本章ノ規定ニ依リテ指定若クハ選任ヲ爲シ又ハ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五章　隱居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件

第九十條　隱居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示シ又ハ家督相續人タルヘキコトヲ承認シタル者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セシムヘシ

隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十一條　廢家ノ許可ハ廢家セントスル戶主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十二條　子ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十三條　民法第九百七十八條ノ戶主權ノ行使ニ付キ必要ナル處分ハ第六十六條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス

第九十四條　家督相續人ノ選定ニ關スル許可ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第九十五條　親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第九十六條　無能力者ノ爲メニ設クヘキ親族會ニ關スル事項ハ其者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ無能力者ノ負擔トス

第九十七條　家督相續人ノ選定ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第九十八條　前二條ニ揭ケサル事件ノ爲メニ開ク可キ親族會ニ關シテハ事件ノ本人ノ住所地ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ事件ノ本人ノ負擔トス

第九十九條　裁判所ハ親族會員又ハ其補缺員ノ選定ニ付キ申請人又ハ民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ヲシテ會員タルニ適當ナル者ヲ指名セシムルコトヲ得

第五編　非訟事件手續法

第百條　親族會員タルコトヲ辭セントスル者ハ裁判所ニ其申請ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ相當スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百一條　親族會ノ招集又ハ親族會員ノ辭任ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百二條　親族會員其他民法第九百四十四條ニ揭ケタル者ハ親族會ノ決議ニ代ハルヘキ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ裁判ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第六章　相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件

第百三條　民法第千十七條第一項但書ニ定メタル期間ノ伸長ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百四條　相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百五條　相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ニハ第九條第一號、第二號、第四號及ヒ第五號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シテ申述人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　被相續人ノ氏名及ヒ最後ノ住所

二　相續ノ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ス旨

第百六條　期間ノ伸長ノ申請又ハ相續ノ限定承認若クハ拋棄ノ申述ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七章　遺言ノ確認及ヒ執行

第百七條　遺言執行者ノ選任及ヒ解任ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ニ於テ選任シタル遺言執行者カ其任務ヲ辭セントスルトキ又ハ其就職ヲ拒マントスルトキハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前二項ニ揭ケタル事件ニ付キ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第百八條　遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ムコトヲ許可シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ム申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

遺言ノ執行者ハ其解任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ遺言執行者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス

第百九條　民法第千七十六條及ヒ第千八十一條但書ニ定メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地ノ裁判所之ヲ管轄トス

第五編　非訟事件手續法

第一章　手續ノ費用ハ遺言者又ハ相續財産ノ負擔トス

第百十條　遺言書ノ確認ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
利害關係人及ヒ檢事ハ遺言ノ確認ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ確認ノ申請人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス
前條第二項ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ適用ス

第百十一條　遺言書ノ檢認ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百十二條　遺言書ノ檢認ハ公證人カ記載シタルモノヲ除ク外遺言ノ方式ニ關スル總テノ事實ヲ調査シテ之ヲ爲ス

第百十三條　封印アル遺言書ノ開封ニ付テハ豫メ其期日ヲ定メテ相續人ヲ呼出スヘシ
第百十四條　遺言書ノ提出、開封及ヒ檢認ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ
調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ
一　提出者ノ氏名、住所
二　提出、開封及ヒ檢認ノ年月日
三　立會人ノ氏名、住所
四　訊問シタル證人、鑑定人、相續人其他ノ利害關係人ノ氏名、住所及ヒ其陳述
五　事實調査ノ結果

第百十五條　裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタル旨ヲ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ
前項ニ揭ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調書ヲ閱覽スルコトヲ得

第百十六條　遺言書ノ提出、開封竝ニ檢認及ヒ其告知ノ費用ハ相續財産ノ負擔トス

第八章　法人及ヒ夫婦財産契約ノ登記

第百十七條　法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第百十八條　夫婦財産契約ノ登記ニ付テハ夫ヲ爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
夫ヲ爲ルヘキ者カ入夫又ハ婿養子タルトキハ妻ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第百十九條　各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財産契約登記簿ヲ備フ

第百二十條　法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條　事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スル者ニ付テハ其許可書又ハ其謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

第百二十二條　法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十三條　夫婦財産契約ニ關スル登記ハ契約書ノ寫方ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ夫婦財産契約書又ハ管理者ノ變更若クハ共有財産ノ分割ヲ許可シタル判決ノ謄本又ハ之ニ關スル契約書カ添附スルコトヲ要ス

第百二十四條　第百十七條、第二百二條乃至第二百四條ノ規定ハ日本ニ事務所ヲ設ケタル外國法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第百二十五條　第百四十一條乃至第百五十一條、第百五十四條乃至第百五十七條及ヒ第百七十七條ノ規定ハ本章ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

第三編　商事非訟事件

第一章　會社及ヒ競賣ニ關スル事件

第百二十六條　商法第四十七條、第四十八條、第百十一條第二項、第百二十四條、第百二十六條第二項、第百九十六條及ヒ商法施行法第九十五條第二項、第百二條第二項、第百十九條ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所管轄トス

商法第三百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百三十三條ニ定メタル事件ハ解散シタル株式會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

商法第二百八十九條第一項及ヒ第六百十條第一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百二十七條　檢査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役又ハ株主之ニ署名、捺印スヘシ

一　申請ノ事由

二　檢査ノ目的

三　年月日

四　裁判所ノ表示

第百二十八條　檢査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ檢査ニ付キ説明ヲ必要トスルトキハ檢査役ヲ審訊スルコトヲ得

第百二十九條　商法第百三十四條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ

發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百三十條　商法第百九十八條ノ規定ニ依リ檢査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

前項ノ裁判ニ關シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百三十一條　商法第百九十八條ノ檢査ニ付キ株主總會ノ招集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定

第五編　非訟事件手續法

ノ期間内ニ其招集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

第百三十一條　商法第百十一條第二項ノ規定ニ依リ檢査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ檢査ヲ要スル事由、同法第百六十條第二項ノ規定ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役カ其招集ヲ怠リシ事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十二條　前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百三十三條　商法第百九十六條第二項ノ規定ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利害ノ關係ヲ有スルコトヲ要スル事由ヲ疏明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第百三十四條　商法第四十七條第四十八條及ヒ商法施行法第百二條第二項ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ヲ命令ハ事由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法ノ規定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及ヒ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第百三十五條　會社及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

第百三十五條ノ二　會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラレタル會社、本店及ヒ支店又ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ抗告裁判所カ裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ外國會社ニ付テハ其支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止セラレタル會社ニ付テハ其本店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第百三十五條ノ三　第百二十六條第一項及ヒ前三條ノ規定ハ會社ニ非スシテ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ裁判所カ商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

第百三十六條　會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百三十七條　清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第百三十八條　左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス

一　未成年者

二　禁治產者及ヒ準禁治產者

第五編　非訟事件手續法

三　倒產公權者停止公權者
四　裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
五　破產者
第三章　商業登記
第一節　通則
第百三十九條　商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業ノ所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
第百四十條　各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ
一　商號登記簿
二　未成年者登記簿
三　妻登記簿
四　後見人登記簿
五　支配人登記簿
六　合名會社登記簿
七　合資會社登記簿
八　株式會社登記簿
九　株式合資會社登記簿
十　外國會社登記簿

第百四十一條　各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ
第百四十二條　登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閱覽ヲ許シ又ハ手數料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若クハ抄本ヲ交付スヘシ
登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限リ登記簿ノ附屬書類ノ閱覽ヲ許スヘシ
郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ
第百四十三條　登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ
第百四十四條　登記シタル事項ノ報告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ二回之ヲ爲スコトヲ要ス
公告ハ之ヲ揭載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス
第百四十五條　區裁判所ハ每年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ揭載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
公告ヲ揭載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲スヘキトキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
第百四十六條　區裁判所ハ其管轄內ノ市町村役場ノ揭示場ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄內ノ市町村役場ノ揭示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得
第百四十七條　登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五編　非訟事件手續法

第百四十八條　當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄
登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得
第百四十九條　登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ
一　申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店
二　代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所
三　登記ノ目的及ヒ事由
四　年月日
五　登記所ノ表示
第百五十條　本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スル
コト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ申請人ニ送達スルコトヲ要ス
第百五十一條　登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ
以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス
第百五十二條　破産裁判所カ商業登記ヲ爲シタル者ニ對シ破産ヲ宣告シタルトキハ其營業所所在地
ノ登記所ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス破産手續ノ停止、破産宣告ノ取消破産手續ノ終結又ハ確定
シタル協諧契約ノ認可アリタルトキ亦同シ

支拂猶豫カ無效ト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ認可シタル裁判所、協諧契約ノ認可ヲ受ケタル破産
者カ有罪破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其協諧契約ヲ取消サレタル場合ニ於テハ受訴裁判所ハ前項ノ登記
所ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス
第百五十三條　登記所カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ破産者ノ商業登記ニ其通知ヲ受ケ
タル事項ヲ記載スルコトヲ要ス但其公告ヲ爲スコトヲ要セス
第百五十四條　商業登記簿ノ全部又ハ一部ヲ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メ
テ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
第百五十五條　司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スル
コトヲ得
第百五十六條　登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム
第百五十七條　不動產登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條及ヒ第二十四條
ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

第二節　商號ノ登記

第百五十八條　商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區
別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第百五十九條　商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ登記ヲ申請
スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス
第百六十條　商號ノ登記ノ申請書ニハ第百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載

第五編　非訟事件手續法

スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第百六十一條　商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏、名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其登記ヲ申請スヘシ

第百六十二條　商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ營事者ハ其登記ヲ申請スヘシ

相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條第三項ノ規定ハ本條第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第百六十三條　商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第百六十四條　前條ノ申請アリタルトキハ登記所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ其旨ヲ告知シ且一个月ヨリ長カラサル期間ヲ定メ異議アラハ其期間內ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ告知及ヒ催告ヲ受クヘキ者又ハ其居所カ知レサルトキハ告知及ヒ催告ハ登記ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル他ノ新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第百六十五條　前條ノ規定ニ從ヒテ異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

第三節　未成年者、妻及ヒ後見人ノ登記

第百六十六條　未成年者カ商業ヲ營ム場所ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但法定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百六十七條　妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但夫カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ爲スニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

妻カ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セサル場合ニ於テ營業ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百六十八條　商業ヲ營ムコトノ許可ヲ爲シタル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルトキハ遲滯ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百六十九條　前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第百七十條　法定財產制ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル妻カ商業ノ登記ヲ申請スルトキ又ハ其

商業ノ登記ヲ爲シタル後管理者ノ變更若クハ共有財産ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ當事者ノ商業登記ニ之ヲ記載スヘシ

第百七十一條　後見人カ被後見人ノ爲メ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四節　支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記

第百七十二條　支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

會社カ申請人ナルトキハ左ニ掲ケタル者ノ申請ニ因リテ前項ノ登記ヲ爲スヘシ

一　合名會社ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員

二　株式會社ニ於テハ取締役

三　合資會社若クハ株式合資會社ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員

第百七十三條　支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　支配人ノ氏名、住所

二　申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人カ代理スヘキ商業及ヒ其用ユヘキ商號

三　支配人ヲ置キタル場所

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ且之ニ支配人選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十四條　第百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅又ハ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ支配人ノ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其解任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十七條　清算人ノ解任又ハ變更ノ登記ハ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ清算人ノ解任又ハ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十八條　清算ノ結了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五節　合名會社及ヒ合資會社ノ登記

第百七十九條　合名會社ノ設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款ヲ添附シ且社員中ニ未成年者又ハ妻アルトキハ其社員タルコトニ同意ヲ爲スヘキ者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十條　合名會社ノ支店ノ設立、其本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第五編　非訟事件手續法

前項ノ申請書ニハ其登記事項ニ付キ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ定アルトキニ限リ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第八十三條但書ノ規定ニ依リ裁判所カ或社員ヲ除名シタル場合ニ於テハ變更ノ登記ノ申請書ニハ其判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

社員ノ氏、名若ハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ會社ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ商法第七十八條第二項ニ依ル公告及ヒ催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十三條　第百七十九條第一項ノ規定ハ合名會社ノ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條　合名會社カ社員ノ請求ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ各社員ノ申請ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

申請書ニハ商法第七十八條第二項ニ依ル公告及ヒ催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十五條　合名會社カ社員ノ申請ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ其登記ヲ爲スヘシ

申請書ニハ商法第七十八條第二項ニ依ル公告及ヒ催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十六條　第百七十九條第三項及ヒ第百八十條乃至第百八十四條ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス

前項ノ申請書ニハ判決ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ判決ニ依リ會社ノ設立カ取消サレタル場合ニ之ヲ準用ス

第百八十五條　合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ依リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十六條　第百七十九條第三項及ヒ第百八十條乃至第百八十四條ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス

第六節　株式會社ノ登記

第百八十七條　株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

二　株主名簿

三　發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタル場合ニ於テハ各發起人ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面、株主ヲ募集シタル場合ニ於テハ各株主ノ株式申込證

四　取締役及ヒ監査役又ハ檢査役カ商法第百三十四條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類

五　檢査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本

六　發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類

七　開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スヘキ定款ノ定アルトキハ之ヲ認可シタル裁判ノ謄本

八　會社ノ事業ノ目的カ官廳ノ免許ヲ受クヘキモノナルトキハ其免許書又ハ其認證アル謄本

九　創立總會ノ決議錄

第百八十八條　支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ニ付キ裁判所ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其裁判ノ謄本、株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ノ氏名又ハ住所ノ變更ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十九條　會社ノ資本增加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　株金全額ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

二　新株主ノ株式申込證及ヒ新株主名簿ノ謄本

三　商法第二百十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ檢査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類

四　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十條　會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ資本減少登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十一條　社債ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　最終ノ貸借對照表

二　社債ノ募集ノ公告ヲ爲シタルコトヲ證スル書面

三　各社債ニ付キ全額ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

四　社債原簿

五　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄

第百九十三條　會社カ社債ノ全部又ハ一部ヲ償還シタルトキハ取締役ハ遲滯ナク其登記ヲ爲スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ償還シタル金額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十三條　會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ株式會社カ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第百九十四條　保險會社カ合併ニ因ル設立若クハ變更又ハ解散ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ主務官廳ノ認許書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス會社カ株主總會ノ決議ニ因リ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第百九十四條ノ次ニ左ノ四條ヲ加フ

第百九十四條ノ二　舊商法ノ規定ニテ設立シタル株式會社カ商法施行法第五十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一　定款

第五編　非訟事件手續法

二　株主名簿
三　各株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
四　設立免許書
五　創業總會ノ決議錄
第百八十七條第一項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第百九十四條ノ三　商法ノ規定ニ依リ資本ヲ增加シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第八十五條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一　株主名簿
二　新株主ノ株式ノ申込ヲ證スル書面
三　資本ノ增加ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄
第百九十四條ノ四　商法ノ規定ニ依リ資本ヲ減少シタル場合ニ於テ會社カ資本減少ノ登記ヲ申スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一　商法第二百七條ニ依ル通知及ヒ催告ヲ爲シタルコト及ヒ異議ヲ申出テタル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面
二　資本ノ減少ニ關スル株主總會ノ決議錄及ヒ假決議錄
第百九十四條ノ五　商法ノ規定ニ依リ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ會社カ商法施行法第七十九條及ヒ第八十條ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
一　株金ノ拂込金額ヲ證スル書面

二　債券原簿
三　主務省ノ認許書又ハ其認證アル謄本
第二百四十條　債券ノ發行ニ關スル株主總會ノ決議錄
第百九十五條　第百八十七條第一項ノ規定ハ會社ノ資本ノ增加若クハ減少又ハ社債ノ登記及ヒ會社ノ解散又ハ會社ノ合併ニ因ル變更若クハ設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第七節　株式合資會社ノ登記
第百九十六條　株式合資會社ノ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
第百七十九條第二項及ヒ第百八十七條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第百九十七條　支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
前項ノ申請書ニハ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其決議錄ヲ添附スルコトヲ要スル外第百八十條第二項ノ規定ヲ準用ス
無限責任社員又ハ監査役ハ氏名、若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ
第百九十八條　第百八十九條乃至第百九十一條及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ資本ノ增加若クハ減少又ハ社債ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第百九十九條　第百九十六條第一項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場

第五編　非訟事件手續法

合ニ之ヲ準用ス

第二百條　株式合資會社ノ解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相續人及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ且無限責任社員ノ同意及ヒ株主總會ノ決議ニ因リ又ハ會社ノ合併ニ因リテ解散シタルトキハ之ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第二百一條　株式合資會社ノ組織ヲ變更シ株式會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ設立シタル株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ會社ノ組織ノ變更ニ關スル株主總會ノ決議錄ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項及ヒ第百八十七條第二項ノ規定ハ本條第一項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ商法第二百四十七條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス

第八節　外國會社ノ登記

第二百二條　外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一　本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二　代表者タル資格ヲ證スル書面

三　會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二百三條　日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其屆出ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ屆出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二百四條　外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第二百五條　（削除）

附　則

第二百六條　民法第八十四條、第千百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十一條、二百六十二條、第五百三十六條及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第七十九條、第七十五條第三項、第八十七條第九十五條第三項ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條　過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五編　非訟事件手續法

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條　過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ効力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百九條　非訟事件手續法其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ト牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ又ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル

第二百九條ノ二　外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要スルモノハ司法大臣之ヲ定ム

第二百十條　本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●商業登記取扱手續（三十二年司法省令第十三號）

第一條　商業登記簿ハ附錄第一號乃至第九號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ但合資會社登記簿ヲ調製スルニハ附錄第七號雛形ノ第一欄ヨリ變更欄ニ至ルマテノ用紙ト社員ノ氏名、住所等ヲ記載スヘキ用紙トヲ別チ初メニ第一欄ヨリ變更欄ニ至ルマテノ用紙ヲ纏メ其末尾ニ社員ノ氏名、住所等ヲ記載スハキ用紙ヲ纏メテ之ヲ編綴スヘシ

外國會社登記簿ノ雛形ハ附錄第六號乃至第九號ニ依ルヘシ

第二條　商號登記簿ハ市町村毎ニ別册ト爲スヘシ但市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域毎ニ別册ト爲シ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區毎ニ別册ト爲スヘシ

第三條　商法施行法第十五條第一項ニ依ル商號ノ登記ノ爲メ東京市及ヒ大阪市ニ存スル登記所（東京區裁判所及ヒ大阪區裁判所ノ本廳ヲ除ク）ノ管轄毎ニ別ニ商號登記簿ヲ備フヘシ

第四條　商業登記簿ノ見出帳ハ附錄第十號乃至第十九號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　受附帳ハ附錄第二十號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第六條　法律ニ依リ登記ノ申請書ニ捺印スヘキ者ハ豫メ其印鑑ヲ登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ但登記ノ申請ニ付キ委任ニ因ル代理ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス

第七條　印鑑ハ附錄第二十一號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第八條　登記所ニハ登記簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　謄本抄本證明書交付帳

二　商號登記申請書附屬書類綴込帳

三　未成年者登記申請書附屬書類綴込帳

四　妻登記申請書附屬書類綴込帳
五　後見人登記申請書附屬書類綴込帳
六　支配人登記申請書附屬書類綴込帳
七　合名會社登記申請書嘱託書附屬書類綴込帳
八　合資會社登記申請書嘱託書附屬書類綴込帳
九　株式會社登記申請書嘱託書附屬書類綴込帳
十　株式合資會社登記申請書嘱託書附屬書類綴込帳
十一　外國會社登記申請書嘱託書附屬書類綴込帳
十二　受領證原符元帳
十三　決定原本綴込帳
十四　登記簿謄本綴込帳
十五　登記濟證交付帳
十六　抗告書類綴込帳
十七　印鑑簿

第九條　登記ノ爲メ當事者ノ提出シタル申請書其他ノ書面ニシテ登記所ニ保存スヘキモノハ之ニ登記簿ノ册數及ヒ其丁數ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ提出年月日ノ順序ヲ追ヒテ編綴スヘシ

第十條　登記簿若クハ附屬書類ノ閲覽又ハ登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

第十一條　登記簿又ハ附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ利害ノ關係ヲ疏明スルニ足ルヘキ事由ヲ記載シ又ハ之ニ其關係ヲ疏明スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

一　登記簿ノ種類
二　閲覽セント欲スル登記事項
三　登記所ノ表示
四　年月日

第十二條　登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

一　登記簿ノ種類
二　謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル登記事項
三　手數料ノ金額
四　登記所ノ表示
五　年月日

登記簿ノ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲモ記載スヘシ

第十三條　登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ申請書二通ヲ提出スヘシ

第五編　商業登記取扱手續

前項ノ申請書ニハ證明ヲ請求スル事項及ヒ年月日ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

登記官吏ハ申請書ノ一通ニ證明文ヲ附シ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第十四條　登記ノ申請ハ申請人又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ爲スヘシ

第十五條　登記官吏カ申請書ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ登記ノ目的、申請人ノ氏名、(會社カ申請人ナルトキハ其商號)受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ申請書ニ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スヘシ

第十六條　申請書其他ノ書面ノ受領證ニハ受附ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載スヘシ

第十七條　登記官吏ハ受附番號ノ順序ニ從ヒテ登記ヲ爲スヘシ

第十八條　登記ヲ爲スニハ登記用紙中相當欄ニ登記事項及ヒ登記ノ年月日及ヒ受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

登記用紙中或欄ニ登記事項ヲ記載スルコトナクシテ登記ヲ完了シタルトキハ其空欄ニ線朱ヲ交叉スヘシ但後日登記スルコトアルヘキ事項ノ爲メ設ケタル欄ニ付テハ此限ニ在ラス

登記用紙中或欄ニ登記事項ヲ記載シタル場合ニ於テ同欄内ニ餘白アルトキハ其餘白ニ朱線ヲ交叉スヘシ

變更欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ其左側ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第十九條　變更ノ登記又ハ登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ變更又ハ更正シタル登記事項ヲ朱抹スヘシ

第二十條　登記用紙ヲ閉鎖スルニハ登記番號ヲ朱抹スヘシ

第二十一條　商法第五十一條第二項、第五十二條第一項、第八十一條又ハ第百十六條第二項等ノ規定ニ依リ同法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲シタルトキハ變更欄ニ其事由ヲ記載スヘシ

非訟事件手續法第百三十五條ノ二及ヒ第百三十五條ノ三ニ定メタル營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ノ登記ハ摠備欄ニ之ヲ爲スヘシ

同法第百五十三條及ヒ第百七十條第二項ノ規定ニ依リ商業登記ニ記載スヘキ事項ハ摠備欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二十二條　社債又ハ資本若クハ株金ノ增加ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記用紙ヘキトキハ變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第二十三條　非訟事件手續法第百四十八條ノ規定ニ依リ登記ノ更正ノ申請アリタルトキハ登記用紙中變更欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第二十四條　登記用紙中或欄カ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其番號ノ第二ナルコト竝ニ前用紙ヲ編綴セル登記簿ノ册數、丁數及ヒ其編綴用紙ナルコトヲ記載シ且前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字竝ニ新用紙ヲ編綴スル旨ヲ記載ス可シ

前用紙中他ノ欄ニ餘白アルトキハ其欄ニ登記ス可キ事項ニ付テハ仍ホ之ニ登記ヲ爲ス可シ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ編綴用紙ヲ假ク場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　登記ヲ爲シ又ハ登記書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫ヲ明瞭ニス可シ

金錢其他ノ物ノ數量、年月日及ヒ番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用ユ可シ

第五編　商業登記取扱手續

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ハ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其削除ニ係ル文字ハ尚ホ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スヘシ

第二十六條　登記ノ公告ハ登記ヲ爲シタル登記所ノ名ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十七條　登記ノ申請人ハ登記濟證ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

登記官吏カ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ附錄第二十二號雛形ニ依リ登記濟證ヲ交付スヘシ

第二十八條　商業登記簿ノ見出帳ニハイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ册數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入ス可シ

第二十九條　登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳中備考欄ニ其事由ヲ記載シテ其見出ヲ朱抹ス可シ

第三十條　商號ノ變更又ハ未成年者、妻、後見人若クハ支配人ノ氏名ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ見出帳中更ニ相當ノ部ニ其見出ヲ移シ前ノ見出ノ備考欄ニ第何册第何丁ニ移シタル旨ヲ記載シテ其見出ヲ朱抹ス可シ

第三十一條　甲登記所ノ管轄地ノ一部カ乙登記所ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ甲登記所ハ其部分ニ屬スル登記簿又ハ其謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ヲ乙登記所ニ移送ス可シ但登記簿ノ謄本ニハ現存セル登記ノミヲ謄寫ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ甲登記所ノ登記用紙中豫備欄ニ管轄變更ニ因リ轉出シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ其登記用紙ヲ閉鎖ス可シ

第三十二條　前條ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本及ヒ附屬書類又ハ其謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ乙登記所ハ登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移ス可シ

登記簿ニ登記ヲ移スニハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ前登記管轄ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載シ豫備欄ニ管轄變更ニ因リ轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印ス可シ

第三十三條　會社ノ商號ハ商號登記簿ニ登記スルコトヲ要セス

第三十四條　同一ノ當事者ヨリ數箇ノ商號ノ登記ノ申請アリタルトキハ各商號ニ付キ各別ノ登記用紙ニ登記ヲ爲ス可シ

第三十五條　商業ヲ營ム未成年者カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記事項カ未成年者ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヨリ登記ノ申請ヲ爲ス可シ

第三十六條　商業ヲ營ム妻カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記事項カ妻ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ其夫ヨリ登記ノ申請ヲ爲ス可シ

第三十七條　被後見人ノ爲メニ商業ヲ營ム後見人カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記事項カ後見人ノ死亡ニ因リ消滅シタルトキハ後見監督人ヨリ登記ノ申請ヲ爲ス可シ

第三十八條　前三條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記事項ノ消滅シタルコトヲ證スルニ足ル可キ書面ヲ添附ス可シ

第三十九條　數人ノ支配人ノ登記ノ登記アリタル場合ニ於テハ各別ノ登記用紙ニ登記ヲ爲ス可シ

第四十條　登記ヲ爲シタル未成年者、妻若クハ後見人ノ營業所又ハ支配人ヲ置キタル營業所カ登記所ノ管轄外ニ移轉シタルトキハ登記用紙中消滅欄ニ其登記ヲ爲シ登記用紙ヲ閉鎖ス可シ

前項ノ規定ハ登記所ノ管轄内ニ他ノ營業所アル場合ニハ之ヲ適用セス

第四十一條　商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ營業所カ商號ノ效力ヲ有スル區域外ニ移轉シタルトキハ登記用紙中消滅欄ニ其登記ヲ爲シ登記用紙ヲ閉鎖ス可シ

第四十二條　前條ノ規定ハ市町村又ハ商號ノ登記ノ效力ニ付キ市町村ニ準ス可キ區域ノ變更ニ因リ商號ノ登記ノ效力カ消滅シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　合資會社ノ社員ノ氏名、住所、出資及ヒ責任ノ登記ハ登記簿ノ末尾ニ編綴セル用紙ニ之ヲ爲ス可シ其登記事項ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ付テモ亦同シ

第四十四條　會社カ其本店又ハ支店ヲ登記所ノ管轄外ニ移轉シタル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記用紙ヲ閉鎖ス可シ

前項ノ規定ハ登記所ノ管轄內ニ本店又ハ他ノ支店アル場合ニハ之ヲ適用セス

第四十五條　會社登記簿ニ清算結了ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記用紙ヲ閉鎖ス可シ

第四十六條　登記ノ申請ニ添附シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其原本ト共ニ原本還付ノ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添附ス可シ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印ス可シ

第四十七條　外國會社ノ登記ハ其謄本ト同種ノ會社ノ登記簿ニ最モ之ニ類似セル欄ニ記載シタル上其名稱ヲ附記ス可シ

第四十八條　外國會社ノ支店ノ廢止ノ登記ハ登記用紙中廢備欄ニ之ヲ爲シ其登記用紙ヲ閉鎖ス可シ

第四十九條　商法施行前ニ登記シタル事項ノ變更若クハ消滅ノ登記又ハ商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付キ商法施行法ノ規定ニ依リ其會社ノ登記ニ追加ス可キ事項ノ登記ハ從來ノ登記簿ニ之ヲ爲ス可シ但從來ノ登記簿用紙中相當ノ欄ナキ事項ニ付テハ變更欄ニ其登記ヲ爲ス可シ

第五十條　不動產登記法施行細則第四條、第五條、第十二條、第十三條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第三十三條乃至第三十九條、第四十七條、第五十一條、第七十一條第一項及ヒ第七十四條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス（附錄者ス）

●商事非訟事件印紙法（二十三年法律第六十六號）

第一條　商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下ノ數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條　左ニ揭クルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一　抗告又ハ假差押ノ申立

二　債權者ヨリ爲ス破產宣告ノ申立

三　支拂猶豫ノ申立

第三條　左ニ揭クルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一　抗告ニ對スル答辯

二　裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條　破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル財務竝ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ控除ス可キモノトス

財團ノ價格五圓マテ	四十錢
同　十圓マテ	六十錢
同　二十圓マテ	一圓二十錢
同　五十圓マテ	三圓
同　七十五圓マテ	四圓四十錢
同　百圓マテ	六圓
同　二百五十圓マテ	十三圓
同　五百圓マテ	二十圓
同　七百五十圓マテ	二十六圓
同　千圓マテ	三十圓
同　二千五百圓マテ	四十圓
同　五千圓マテ	五十圓

同　五千圓以上ハ千圓ニ遂スル毎ニ四圓ヲ加フ

第五條　破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引法リ置キ終局計算ニ至リ配當金總高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用ス可シ

第六條　協諧契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ揭ケタル印紙ノ半額ヲ貼用ス可シ

第七條　破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル協合ト同一ノ印紙ヲ貼用ス可シ

㊾公證人規則（十九年法律第二號）

第一章　總則

第一條　公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務トス爲ス

第二條　公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ効ヲ有セス

第三條　公證人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スル力アルモノトス但刑事裁判所ニ僞造ノ訴アトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得

第四條　公證人ハ「治安裁判所」ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受クタル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ務職ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄「始審裁判所」ノ認可ヲ受ク可シ

已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限リ役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第五條　各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム

第六條　公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長「始審裁判所長」ノ監督ヲ受クルモノトス

第七條　公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第八條　公證人ハ理由ナクシテ人民ノ嘱託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ嘱託人ノ求アレハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ

第九條　公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄「始審裁判所」ニ抗告スルコトヲ得

第十條　公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作リ其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄「始審裁判所及治安裁判所」ニ差出ス可シ

前項ノ印鑑ヲ差出ササル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第十一條　公證人已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ嘱シ管轄「始審裁判所」ニ其旨ヲ届出可シ

第十二條　公證人ハ鮮生ヲ證ス書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條　公證人ノ作ル證書及ヒ謄本ノ用紙ハ某「始審裁判所」管内公證人役場ト刻シタル罫紙ヲ用フ可シ

第十四條　公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

第一　原本　證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ

第二　正本　原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

第三　抄錄正本　原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ

第四　正式謄本　原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第五　抄錄正式謄本　原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ

第六　謄本　原本ノ全文ヲ寫シタルモノ

第七　抄錄謄本　原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八　見出帳　日日ノ授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條　原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條　裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可カラス

第十七條　公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩ス可ラス

第二章　公證人ノ選任及試驗

第十八條　公證人タル可キ者ハ左ノ件件ヲ具備スルヲ要ス

第一　滿二十五歳以上ナル事

第二　身元保證金ヲ管轄「始審裁判所」ニ差入ルル事

第三　定式試驗ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官タリシ者及此學士法科大學卒業生「代言人」ハ此條件ヲ要セス

第四　丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條　保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ貳百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之ヲ定ムル

第二十條　左ニ揭クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一　公權剝奪若クハ停止中ノ者

第五編　公證人規則

第二　盜犯詐僞罪賄賂收受ノ罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者
第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
第四　官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條　公證人ヲ試驗スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クトモ二箇月前ニ告示ス可シ

第二十二條　試驗委員ハ控訴院若クハ「始審裁判所」ノ裁判官二名檢察官一名トシ司法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條　試驗ノ科目ハ公證人規則、民法、訴訟法、商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令トス

第二十四條　公證人タラント欲スル者ハ願書ニ試驗及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄「始審裁判所」若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書「代言人」ハ其免狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條　公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條　試驗ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試驗ニ合格セサル者ハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得

第二十七條　試驗及第ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章　證書

第一節　證書ノ原本

第二十八條　公證人證書ヲ作ルニハ嘱託人ノ氏名ヲ知リ面識アルヲ要ス之ニ遇ヒタルトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戸長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知リ面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ遇ヒタルトキハ其證者ハ公正ノ効ヲ有セス

第二十九條　左ニ揭ル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一　公證人及嘱託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ雇生

第二　第二十條ニ揭ケタル者

第三十條　證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一　嘱託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齡

第二　嘱託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齡

第三　嘱託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齡

第四　郡區長戸長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齡

第五　證書ヲ作リシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年ノ月日記入ヲ遺脫シタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十一條　證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス

接續ス可キ字行ニ空白アルトキハ畫線ヲ以テ之ヲ接續スヘシ

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹弐參肆伍陸漆捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フ可シ

第三十二條　度量衡貨幣ノ數量、名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記スヘシ
既ニ廢シタル度量衡、貨幣、曆法又ハ外國ノ度量衡、貨幣曆法ヲ記セサルヲ得サル場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條　證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字非ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印スヘシ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尚ホ明カニ認得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ヲ違ヒタルトキハ追加、改正、消字ノ効ヲ有セス

第三十四條　證書ヲ作リタルトキハ關係人ニ證聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ其「治安裁判所」管内某地住居ト肩書ス可シ

第三十五條　證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ屬託人之ニ捺印スヘシ

第三十六條　公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十七條　公證人若シ嘱託人ノ爲メ訴訟代人若クハ「代言人」ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十八條　公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條　公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲ササルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第四十條　嘱託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連綴ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條　證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連綴スルコトヲ得之ヲ連綴シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附證シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ

第四十二條　原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節　正本及謄本

第四十三條　正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効ヲ有セス

第四十四條　正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄「始審裁判所」ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其効力ヲ有セス

第五編　公證人規則

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾并ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

第四十五條　正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

正本又ハ正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公證人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効力ヲ有セス

第四十六條　正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條　正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ嘱託「始審裁判所」ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條　數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ因リ其有用ノ部分ヲ抄錄シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

第四十九條　正本又ハ正式謄本ハ嘱託「始審裁判所」ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ嘱託「始審裁判所」ニ願出ス可シ嘱託「始審裁判所」ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ其正本又ハ正式謄本ニ記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十條　抄錄正本又ハ抄錄正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

第五十一條　證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡ス可シ

第五十二條　謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十三條　抄錄謄本ニハ原本ノ年月日及嘱託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄錄謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條　嘱託「始審裁判所」ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連綴シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人ナシテ署名捺印セシム可シ

第三節　見出帳

第五十五條　公證人ハ見出帳ヲ作リ記入前嘱託「始審裁判所」ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條　見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第一　嘱託人ノ住所氏名

第五　公證人規則

第二　書類ノ番號種類

第三　書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節　兼任及書類ノ授受

第五十七條　公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テ管轄「始審裁判所」ハ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ

第五十八條　前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テハ管轄「始審裁判所」ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ

第五十九條　公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作リ共ニ署名捺印シテ授受ス可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡ハナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄「始審裁判所」ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作リ受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄「始審裁判所」ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作リ受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作リタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄「始審裁判所」ニ差出ス可シ

第六十條　公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ

兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條　兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作リ受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ

受繼人ハ始末書ヲ作リタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作リ管轄「始審裁判所」ニ差出ス可シ

第六十二條　停職者復任スルトキハ管轄「始審裁判所」ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ

第六十三條　前任者ノ作リタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

本任者ノ作リタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記ス可シ

第四章　手數料及旅費日當

第六十四條　公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ嘱託人ヨリ手數料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條　手數料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條　嘱託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作リタルトキハ草案ノ手數料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手數料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條　公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滯留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條　兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手數料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第五編　公證人規則

第六十九條　手數料ノ外證券印紙並ニ罫紙ノ代價ハ嘱託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條　嘱託人ノ求メアルトキハ手數料等ノ計算書ヲ與フ可シ

第七十一條　手數料等ニ係ル爭ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラス管轄「始審裁判所」ニ訴フ可シ

第五章　罰則

第七十二條　公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄「始審裁判所」ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條　左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ證聞セシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サヽリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ノ第二項ニ違ヒタル時

第五十條ノ第一項ニ違ヒタル時

第五十一條ノ第四項ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十六條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條　左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條　左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第二條ニ違ヒタル時

第七條ニ違ヒタル時

第五編　公證人規則

第十條ノ第二項ニ違ヒタル時
第二十八條ニ違ヒタル時
第三十條第五ノ規定ニ違ヒタル時
第三十三條ニ違ヒタル時
第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時
第三十六條ニ違ヒタル時
第三十七條ニ違ヒタル時
第三十八條ニ違ヒタル時
第三十九條ニ違ヒタル時
第七十六條　左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス
第四條ノ第一項ニ違ヒタル時
第十五條ニ違ヒタル時
第十六條ニ違ヒタル時
第十七條ニ違ヒタル時
第七十七條　公訟人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ當該控訴院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス
第七十八條　公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス
第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身許保證金ヲ差入レサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條　公訟人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ此ヲ賠償ス可シ

●行政裁判法（二十三年法律第四十八號）

第一章　行政裁判所組織

第一條　行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條　行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

二異官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ歴シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ內閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラルヘキモノトス

書記ハ長官之ヲ判任トス

第四條　長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一　公益政事ニ關係スルコト

二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ裁判所職員府縣郡市町村會ノ職員若クハ參事會員タルコト

三　議官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル業務ニ就コト

四　商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條　第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルヽコトナシ

第五編　行政裁判法

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條　長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條　長官ハ自ラ裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條　行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ニ過半數ニ依ル

第十條　長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一　裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二　裁判スヘキ事件ニ私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ位地ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三　裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スル

第十一條　前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人又ハ同避セシメムヘキ者ノ申出ニ依リ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議ノ決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ同避セシメムヘキ者之ヲ議決スヘキ事件ニ付キ

第十三條　行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章　行政裁判所ノ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十五條　行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條　行政裁判所ハ損害要償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條　行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第五編　行政裁判法

第十九條　行政裁判所ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條　行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條　行政裁判所判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章　行政訴訟手續

第二十二條　行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分ヲ爲シ又ハ爲サヽルコトヲ知リタル日ヨリ六十日以內ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算竝ニ災害事變ノ爲メ遲延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟法規程ヲ適用ス

第二十三條　行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條　行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一　原告ノ身分、職業、住所、年齡

二　被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三　要求ノ事件及其理由

四　立證ニ關スル事實

五　年月日

訴狀ニハ原告又ハ經歷シタル訴願裁決書竝ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條　訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條　行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル議決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ法式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指シテ還付ス可シ

第二十八條　行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシム可シ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フ可シ

第二十九條　行政裁判所ニ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告ヘ交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條　行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告ヘ交互ニ送付スル代リニ所內ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條　行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

第五編　行政裁判法

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

第三十三條　行政官廳ハ其官吏又ハ其市立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十四條　行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上ノ決律上ノ點ニ就キ文書ニ證サール所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若クハ新ニ證憑ヲ提出シ及證書ヲ揭示スルコトヲ得

第三十六條　主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十七條　公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條　行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ竝ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

其義務ヲ盡サール場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁所判又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條　行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條　審問手續ニ關スル故障ノ由立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條　召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ第三者出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條　行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第五編　行政裁判法

第四章　附則

第四十四條　此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條　第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル處ニ依ル

第四十六條　從前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條　此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍從前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

●行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判（二十三年法律第百六號）

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

一　海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件

二　租稅滯納處分ニ關スル事件

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四　水利及土木ニ關スル事件

五　土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

●訴願法（二十三年法律第百五號）

第一條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

一　租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件

二　租稅滯納處分ニ關スル事件

三　營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四　水利及土木ニ關スル事件

五　土地ノ官民有區分ニ關スル事件

六　地方警察ニ關スル事件

其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

第二條　訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起ス可シ

訴願裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ

國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起ス可シ

第三條　各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起ス可シ

第四條　裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス

第五條　訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ

訴願書ノ侮辱誹毀ニ渉ルモノハ之ヲ受理セス

第六條　訴願書ハ其不服ノ要　理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ

第七條　多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載

シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條　行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕ス可キ理由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條　法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ闕クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條　訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條　第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辨明書及必要文書ヲ添ヘ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條　訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行ヲ停止セス但行政廳ハ事職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條　訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下スルトキ亦同シ

第十五條　訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條　上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條　訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規程ニ依ル

附　則

第十八條　明治十五年(十二月)第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ

第二十條　第八條ノ訴願期限ハ此法律施行前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ此處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律執行ノ日ヨリ之ヲ記算ス

第二十一條　行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

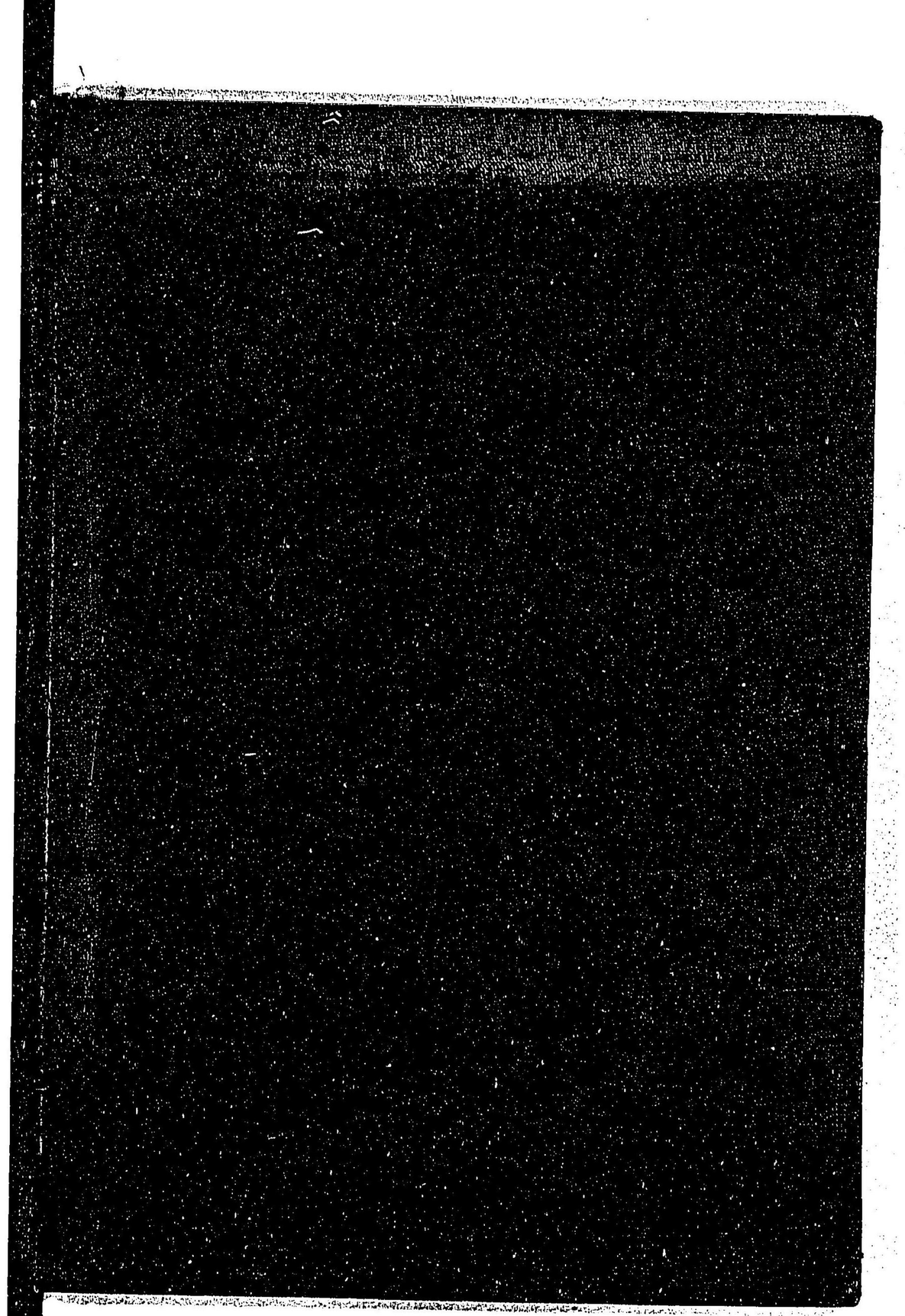
明治三十二年九月五日　印刷
明治三十二年九月十六日　發行

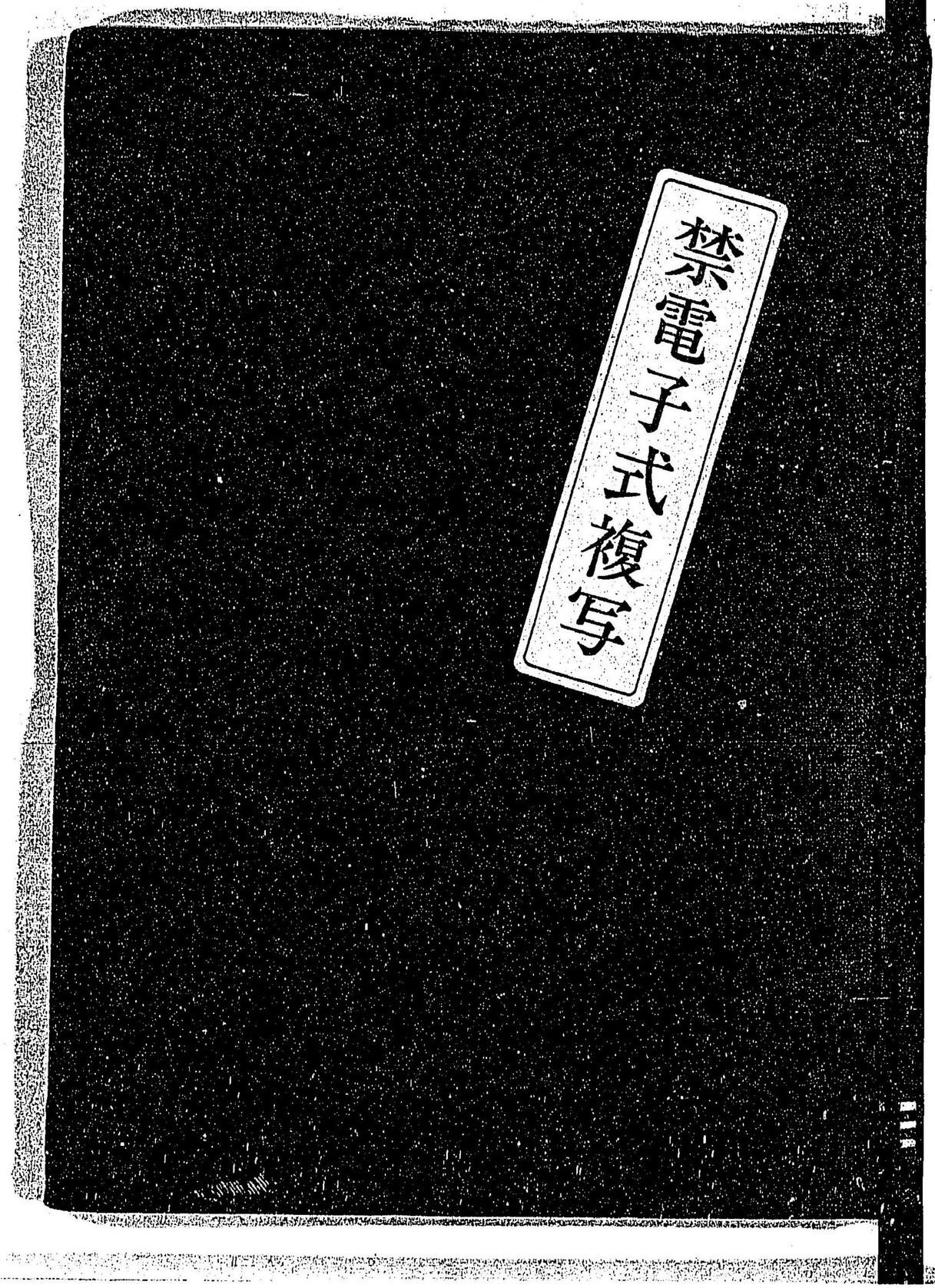
編者　法典研究會

發行兼印刷者　東京市神田區猿樂町貳番地　松宮次郎

發行所　東京市神田區猿樂町貳番地　濟美館

關西大販賣所　大坂市東區備後町四丁目　吉岡平助



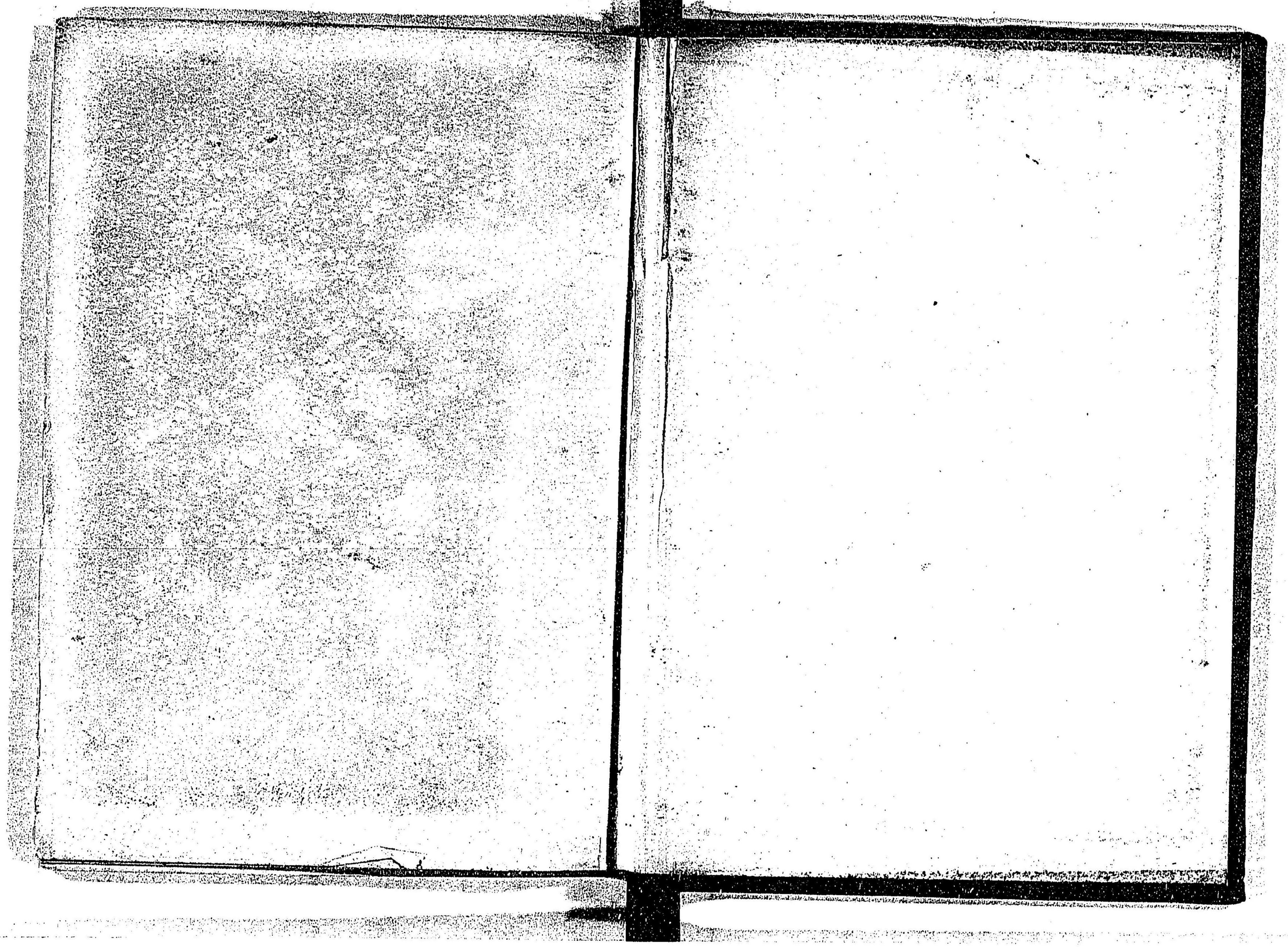


031087-000-1

CZ-5-0191

日本六法

法典研究会／編

M32

BBC-0704